



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)伊豆市立新中学校新築工事	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点		取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.7	/5		よい	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)			3.4	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) カーテン及び庇を設置し昼光制御を行う計画とする。内装材はF☆☆☆☆の材料を全面的に採用し、空気質向上を図っている。また空調は空気式床輻射空調システムを採用し、快適な生活環境となる計画とする。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) たおやかな狩野川沿いの風景とともに、親しみやすく快適な建築をコンセプトとし、低層で勾配屋根の建物形状としてまちなみ・景観に馴染む計画としている。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 建物の高断熱化、高効率設備の採用、太陽光発電による創エネ、人感センサーを用いた照明・換気設備の発停制御等を行い、エネルギー消費の削減を図っている。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 節水型器具や擬音装置を採用し、水資源保護に努めている。</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			3.2
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 避難所としての利用も想定したBCP対策として、非常用電源の確保、停電時にも利用可能な空調設備、2種類の給水方式の併用等を行っている。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)			4.7
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 余裕のある階高および天井高を確保している。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <small>敷地内には、敷地内に設置された太陽光パネルの設置による遮光・遮影の影響を考慮し、周辺環境との調和を図る計画としている。</small></p>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			2.8	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 低層で勾配屋根の建物形状としてまちなみ・景観に馴染む計画としている。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 内装材や設備計画等、維持管理のしやすさに配慮した材料、工法を選定している。</p>	Q-3 1 ⑥ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑥ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

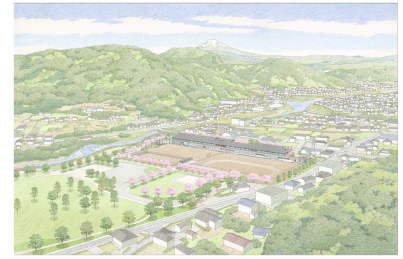
CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)伊豆市立新中学校新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県伊豆市加殿19-1	構造	RC造
用途地域	なし	平均居住人員	600 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2023年5月29日
敷地面積	37,817 m ²	作成者	石本建築事務所
建築面積	6,642 m ²	確認日	2023年5月29日
延床面積	9,906 m ²	確認者	石本建築事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 86%

③上記+②以外の 86%

④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。</p> <p>「まちが育てる学校、まちを育てる学校」それぞれに歴史と特色のある修善寺、中伊豆、天城湯ヶ島の3地域が集まり、未来をひらく子供たちを地域全体で育み、同時に</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>カーテン及び庇を設置し昼光制御を行う計画とする。内装材はF☆☆☆☆の材料を全面的に採用し、空気質向上を図っている。また空調は空気式床放射空調システムを採用し、快適な生活環境となる計画とする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>余裕のある階高および天井高を確保するとともに、内装材や設備計画等、維持管理のしやすさに配慮した材料、工法を選定している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>たおやかな狩野川沿いの風景とともにある、親しみやすく快適な建築をコンセプトとし、低層で勾配屋根の建物形状としてまちなみ・景観に馴染む計画としている。また建物を道路からセットバックし、建物内に設けたカフェとつながる地域の交流広場空間を創出する。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物の高断熱化、高効率設備の採用、太陽光発電による創エネ、人感センサーを用いた照明・換気設備の発停制御等を行い、エネルギー消費の削減を図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型器具や撥音装置を採用し、水資源保護に努めている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>駐輪場、駐車場は十分に設置台数を確保する計画とし、周辺の交通渋滞への影響に配慮した計画としている。また敷地内に雨水貯留槽、調整池を整備し、雨水流出の抑制に努めている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される